合併財務諸表の作成

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　照合勘定の相殺の処理を理解しよう！

②　合併財務諸表を作成できるようになろう！

主な勘定科目

「本店」勘定、「支店」勘定

「支店へ売上」勘定（収益)、「本店より仕入」勘定（費用）

「本店へ売上」勘定（収益)、「支店より仕入」勘定（費用）

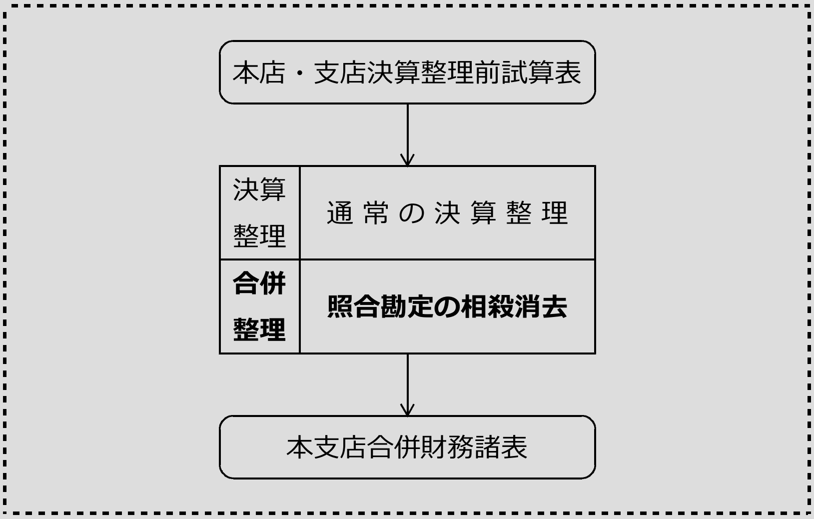
（１）精算表上の処理

本店と支店は会社としては１つであり､会社として財務諸表を作成する必要があります。本支店会計では本店と支店の数値を合算するので、**合併財務諸表**といいます。

合併財務諸表は**精算表**で作成されます。精算表では、本店と支店の決算整理前試算表を合算し、決算整理事項と合併整理事項について処理を行います。

決算整理事項の処理は帳簿上の処理と同じですので、ここでは**合併整理事項**について学習します。

<精算表上の処理>



（２）照合勘定の相殺消去

① 本店勘定と支店勘定の相殺

本店の「**支店**」勘定と支店の「**本店**」勘定は、会社内部の債権・債務関係を示したものであり、対外的には意味はないので相殺消去します。そこで、精算表の合併整理欄において次の記入を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
本　　　　　　店	×××	**支　　　　　　店**	×××

② 内部取引の相殺

本支店間の商品売買取引について照合勘定で処理している場合、本店の「**支店へ売上**」勘定（収益）と支店の「**本店より仕入**」勘定（費用）、本店の「**支店より仕入**」勘定（費用）と支店の「**本店へ売上**」勘定（収益）は、会社内部の取引を示したものであり、対外的には意味はないので相殺消去します。そこで、精算表の合併整理欄において次の記入を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
支 店 へ 売 上	×××	**本 店 よ り 仕 入**	×××
本 店 へ 売 上	×××	**支 店 よ り 仕 入**	×××

（３）売上高と売上原価

本支店合併損益計算書における売上高と売上原価をまとめると、以下となります。

Ⅰ 売　　上　　高	×××	←― **外部売上高合計**
Ⅱ 売　上　原　価		
1．期首商品棚卸高	×××	←― **期首商品合計**
2．当期商品仕入高	×××	←― **外部仕入高合計**
合　　計	×××	
3．期末商品棚卸高	×××	←― **期末商品合計**

例題　**外部公表用損益計算書（一部）を作成しなさい。なお、本店及び支店の期末商品は、12,000円及び33,000円であった。**

決算整理前残高試算表

借方科目	本　店	支　店	貸方科目	本　店	支　店
繰越商品	10,000	22,000	本　店	―	31,500
支　店	31,500	―	売　上	140,000	189,000
仕　入	100,000	70,000	支店へ売上	50,000	―
本店より仕入	―	50,000			

①　決算整理仕訳（精算表上の処理）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　入	32,000	繰越商品	32,000
繰越商品	45,000	仕　入	45,000

仕入：本店期首商品10,000＋支店期首商品22,000＝32,000

繰越商品：本店期末商品12,000＋支店期末商品33,000＝45,000

②　合併整理仕訳（精算表上の処理）

・照合勘定の相殺消去

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
本　店	31,500	支　店	31,500
支店へ売上	50,000	本店より仕入	50,000

③　公表用損益計算書

Ⅰ　売　　上　　高		329,000
Ⅱ　売　上　原　価		
1．期首商品棚卸高	32,000	
2．当期商品仕入高	170,000	
合　　　計	202,000	
3．期末商品棚卸高	45,000	157,000
売　上　総　利　益		172,000

売上高：本店前T/B 売上140,000＋支店前T/B 売上189,000＝329,000

期首商品棚卸高：本店前T/B 繰越商品10,000
＋支店前T/B 繰越商品22,000＝32,000

当期商品仕入高：本店前T/B 仕入100,000
＋支店前T/B 仕入70,000＝170,000

期末商品棚卸高：本店期末商品12,000＋支店期末商品33,000＝45,000

支店間取引

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　２つの処理方法を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「本店」勘定

各支店勘定

支店が２つ以上ある場合、支店間の取引が行われることがあります。この支店間取引の処理方法として**支店分散計算制度**と**本店集中計算制度**の２つの方法があります。

（１）支店分散計算制度

支店分散計算制度とは、支店間取引を支店間の取引として処理する方法です。この方法では、支店では「**本店**」勘定と**各支店勘定**を設け、本店では**各支店勘定**を設けます。

例題　**大阪支店は福岡支店に現金800円を送付した。なお、支店分散計算制度を採用している。**

・本店　仕訳なし

・大阪支店

実際に取引を行った「福岡支店」勘定を用いて処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
福岡支店	**800**	**現金**	**800**

・福岡支店

実際に取引を行った「大阪支店」勘定を用いて処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**800**	**大阪支店**	**800**

（２）本店集中計算制度

本店集中計算制度とは、支店間取引を本店と支店の取引とみなして処理する方法です。この方法では、支店では「**本店**」勘定のみを設け、本店では**各支店勘定**を設けます。

例題　**大阪支店は福岡支店に現金800円を送付した。なお、本店集中計算制度を採用している。**

・本店

大阪支店の「本店」勘定が借方に記入されたので、本店では貸方に「大阪支店」勘定で処理します。また、福岡支店の「本店」勘定が貸方に記入されたので、本店では借方に「福岡支店」勘定で処理します。このように、本店集中計算制度では、先に各支店の処理を行ってから、本店の処理を考えて下さい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
福岡支店	**800**	**大阪支店**	**800**

以下のように２つの仕訳を考えるとわかりやすいでしょう。

①　大阪支店から本店に現金が送付されたと仮定します。

現　　金　800 / 大阪支店　800

②　本店から福岡支店へ現金を送付したと仮定します。

福岡支店　800 / 現　　金　800

・大阪支店

実際には福岡支店と取引を行ったのですが、「本店」勘定を用いて処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
本店	**800**	**現金**	**800**

・福岡支店

実際には大阪支店と取引を行ったのですが、「本店」勘定を用いて処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**800**	**本店**	**800**

本支店会計　問題

問題1　以下の取引に関して、以下の各問に答えなさい。

①　当社は大阪支店、名古屋支店、福岡支店を有しており、本店集中計算制度により会計処理を行っている。大阪支店が福岡支店の広告宣伝費15,000円を現金で支払った取引について、本店、大阪支店、福岡支店で行われる仕訳を答えなさい。

②　かねて本店が仕入先から掛で仕入れた商品代金20,000円について、本日、東京支店に仕入先の店員が集金に来たので、東京支店は本店に代わってこれを小切手を振り出して支払った。なお、当社は本店の他に支店を全国に展開しており、支店独立計算制度により会計処理を行っている。本店、東京支店で行われる仕訳を答えなさい。

本支店会計　答案用紙

問題1

①	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
本　　店				
大阪支店				
福岡支店				

②	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
本　　店				
東京支店				

本支店会計　解答解説

問題1　**解答**

①	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
本　店	**福岡支店**	**15,000**	**大阪支店**	**15,000**
大阪支店	**本店**	**15,000**	**現金**	**15,000**
福岡支店	**広告宣伝費**	**15,000**	**本店**	**15,000**

②	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
本　店	**買掛金**	**20,000**	**東京支店**	**20,000**
東京支店	**本店**	**20,000**	**当座預金**	**20,000**

問題1　**解説**

①　本店集中計算計算制度を採用していますので、支店間取引を支店では本店との取引とみなして処理します。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
本　店	**福岡支店**	**15,000**	**大阪支店**	**15,000**
大阪支店	**本店**	**15,000**	**現金**	**15,000**
福岡支店	**広告宣伝費**	**15,000**	**本店**	**15,000**

②　支店独立計算計算制度を採用しているとの指示がありますが、当該取引は本支店間取引ですので、通常の仕訳を行えば良いです。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
本　店	**買掛金**	**20,000**	**東京支店**	**20,000**
東京支店	**本店**	**20,000**	**当座預金**	**20,000**